

理学療法学生における宿泊研修の効果

－ 社会人基礎力およびコミュニケーションスキルの変化 －

Effect of the staying workshop in Physical therapy students

- Change of fundamental competencies for working persons and the communication skill -

馬屋原 康高 1) / 丹羽 敦 2) / 宮崎 洋幸 2) / 近藤 敏 2) / 大塚 彰 1) / 富樫 誠二 1)

Yasutaka Umayahara / Atsushi Niwa / Hiroyuki Miyazaki

Satoshi Kondo / Akira Otsuka / Seiji Togashi

1) 広島都市学園大学 健康科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻

Hiroshima Cosmopolitan University Faculty of Health Sciences Department of Rehabilitation
Physical Therapy Course

2) 広島都市学園大学 健康科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻

Hiroshima Cosmopolitan University Faculty of Health Sciences Department of Rehabilitation
Occupational Therapy Course

キーワード：社会人基礎力、コミュニケーションスキル、宿泊研修

I. 緒言

本学では、1・2年次の通年科目として、「コミュニケーション技法」を設け、2泊3日の宿泊研修を実施している。本研修の目的は、「①施設の規律を守り集団の一員として自覚を持った行動をとることができる」、「②グループメンバーの意見を尊重しつつ積極的に意見を述べるができるなど、円滑なチームワークができる」、「③研修で経験したことや学習したことについて簡潔に記録し、わかりやすく論理的に他者に説明できる」で、医療従事者の人材育成における基礎と位置づけている。平成27年度の研修では、野外活動や3日間完結型のグループワークを企画した。グループワークは、「理想の理学療法士とは」をテーマに、KJ法を用いた意見の集約、発表ポスターの作成、ポスター発表を3日間の日程で実施した。しかしながら、その学習効果についてコミュニケーションスキルの向上や人材育成に反映されているのか検証していなかったため、学生へのフィードバックや研修内容を再構築する際に問題点となっていた。

人材育成については、2006年に厚生労働省が「社会人基礎力」を提唱している¹⁾。これは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」とされている。近年では、社会人基礎力の概念を医療職教育に導入する試みが報告されている²⁻⁵⁾。コミュニケーションスキルについては、コミュニケーション・スキル尺度 ENDCOREs（以下コミュニケーションスキル）を用いて⁶⁾、医療職養成校の学生を対象とした調査研究が見受けられる⁷⁾。

そこで本研究では、研修成果をコミュニケーション・スキル尺度および社会人基礎力の各項目を点数化することで評価、検証することを目的とした。

II. 対象と方法

1. 対象

対象は、平成27年度の「コミュニケーション技法」を受講した理学療法学専攻1・2年次生で、評価結果の公表に同意が得られた学生117名とした。

2. 方法

1) 評価方法

社会人基礎力は、2006年に経済産業省が公開している社会人基礎力を基にリッカート尺度を用いて「発揮できない」「なんとか発揮できた」「発揮できた」「効果的に発揮できた」の4段階で自己評価したのち、点数化した（以下 社会人基礎力）。コミュニケーションスキルの評価には、コミュニケーション・スキル尺度 ENDCOREsを用いた。さらに、各スコアの平均値を代表値とした。

2) 解析方法

各学年の社会人基礎力、コミュニケーションスキルの実施前後の比較に Wilcoxon の順位検定を用いた。またコミュニケーションスキルにおける総合点が増加した群（以下 成果あり群）、総合点に変化しなかったおよび低下した群（以下 成果なし群）に分けた。コミュニケーションスキルの群間比較には、Mann-Whitney U 検定を用いた。全ての統計処理には、統計解析ソフト EZR を使用し、有意水準は5%未満とした。

3) 倫理的配慮

本研究は、広島都市学園大学倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号：第 2015028）。被検者には、研究の内容について書面および口頭にて十分に説明し、同意を得た。

Ⅲ. 結果および考察

社会人基礎力の結果を表 1 に示す。社会人基礎力は、全ての項目で研修後スコアが研修前と比較し有意に上昇した（ $p<0.01$ ）（表 1）。

コミュニケーションスキルは、自己主張の項目のみ研修後スコアが有意に上昇した（ $p<0.05$ ）（表 2）。学生を対象とした報告では、「読解力」や「他者受容」の項目が高く、「表現力」や「自己主張」の項目が低いことが報告されている^{6,7)}。本研究においても研修前に「自己主張」の項目が低い傾向にあったが、研修後では有意に上昇していることから、宿泊研修によって何らかの効果が得られた可能性が示唆された。

また、コミュニケーションスキルの成果の有無による比較では、研修前において成果なし群が、自己主張を除く全ての項目で有意に高値であった。また研修後は、自己主張や関係調整の項目が成果あり群にて有意に高値であった（ $p<0.01$ ）（表 3）。

成果なし群では研修前評価においてすでに高いスコアが付けられているのが特徴である。成果なし群では、研修前においてコミュニケーションスキルを過大評価していた可能性が考えられる。近年では、痛みに対する薬の効果を主観的評価である Visual Analogue Scale で評価する場合、投与終了時から投与前や投与中の痛みを振り返って評価する場合がある。本研究においても、コミュニケーションスキルは主観的な評価であるため研修実施後の評価時に、実施前を振り返って評価する方法で検証が必要である。

Ⅳ. 結語

本学では、1・2 年次の通年科目として、「コミュニケーション技法」を設け、2 泊 3 日の宿泊研修を実施した。本研究では、研修成果を社会人基礎力およびコミュニケーション・スキル尺度を用いて評価、検証した。その結果、社会人基礎力は、全ての項目で効果が得られ、コミュニケーションスキルは、自己主張の項目のみ効果が得られた。コミュニケーションスキルにおける総合点の増加の有無で比較した場合、研修前において成果なし群が、自己主張を除く全ての項目において有意に高値で、研修後は、自己主張や関係調整の項目が成果あり群にて有意に高値であった。効果なし群では研修前評価において過大評価していた可能性が考えられる。今後は、研修実施後に、実施前を振り返って評価する方法で検証が必要である。

引用文献

- 1) 厚生労働省 HP：<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>（平成 28 年 9 月 14 日現在）
- 2) 木村まり子・他：作業療法学科学生における社会人基礎力と職業的アイデンティティの関係。柳川リハビリテーション学院・福岡国際医療福祉学院紀要11：40-44，2015。
- 3) 松谷信也・他：1年次の見学実習が社会人基礎力に及ぼす影響。作業療法学科学生を対象とした検討。柳川リハビリテーション学院・福岡国際医療福祉学院紀要11：24-27，2015。
- 4) 北島洋子・他：看護系大学生の社会人基礎力の構成要素と属性による相違の検討。大阪府立大学看護学部紀要17：13-23，2011。
- 5) 鈴木良美・他：「自然体験学習」が看護学部学生の社会人基礎力に及ぼす有効性の検証。東邦看護学会誌13：37-41，2016。
- 6) 藤本学・他：コミュニケーション・スキルに関する諸要因の階層構造への統合の試み。パーソナリティ研究15：347-361，2007。
- 7) 河内浩美・他：看護学生におけるSOC (Sense of Coherence) とコミュニケーション・スキルの実態。実習の経験別による比較。新潟青陵学会誌7：57-62，2014。

表 1. 社会人基礎力の研修前後比較結果

	2年次生 (n=54)			1年次生 (n=63)		
	アクション	シンキング	チームワーク	アクション	シンキング	チームワーク
研修前スコア	2.4±0.4	2.3±0.5	2.7±0.4	2.1±0.5	2.1±0.5	2.5±0.5
研修後スコア	3.4±0.5**	3.1±0.5**	3.4±0.4**	2.8±0.6**	2.7±0.5**	3.1±0.5**
(各スコアの平均値を代表値とした) * : $p<0.05$, ** : $p<0.01$ (研修前スコアに対する有意差)						

表 2. コミュニケーションスキルの研修前後比較結果

	自己統制	表現力	読解力	自己主張	他者受容	関係調整
研修前 (n=117)	4.8±0.9	4.3±1.1	4.8±1.0	3.9±1.0	5.2±0.9	5.0±0.9
研修後 (n=117)	4.9±0.9	4.3±1.0	4.8±1.0	4.1±1.0*	5.1±0.8	4.9±0.9
(各スコアの平均値を代表値とした) * : $p<0.05$, ** : $p<0.01$ (研修前スコアに対する有意差)						

表 3. 成果あり群と成果なし群のコミュニケーションスキル比較結果

	研修前スコア平均					
	自己統制	表現力	読解力	自己主張	他者受容	関係調整
成果あり群 (n=61)	4.5±0.8	4.0±1.0	4.5±0.9	3.7±1.0	4.9±0.9	4.7±0.7
成果なし群 (n=56)	5.1±1.0**	4.6±1.1**	5.1±1.0*	4.1±1.1	5.5±0.8**	5.2±1.0*
	研修後スコア平均					
	自己統制	表現力	読解力	自己主張	他者受容	関係調整
成果あり群 (n=61)	5.0±0.8	4.3±0.9	4.9±0.9	4.3±1.1	5.2±0.9	5.0±0.9
成果なし群 (n=56)	4.8±1.0	4.2±1.1	4.7±1.1	3.9±1.0*	5.1±0.8	4.8±0.9*
* : $p<0.05$, ** : $p<0.01$ (成果あり群に対する有意差)						